

組織目標評価報告書（平成29年度）

部局名：

評価センター

部局長名：

五福 明夫

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
④センター業務	
④-1 目標	④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<p>(1)教育研究活動の改善に資するための効果的かつ効率的な自己点検評価の実施 第2期中期目標期間評価の評価結果を検証し改善を推進するとともに、第3期中期目標・中期計画を確実に達成するため、中期計画・年度計画進捗状況管理シートを活用し、第3期中期目標期間初年度の活動に対する自己点検評価を実施する。</p> <p>(2)第三者評価の積極的かつ計画的な受審 教職大学院認証評価を受けるとともに、平成30年度受審予定の大学機関別選択評価C(教育の国際化の状況)について自己点検評価を行い、自己点検評価書の作成を進める。</p> <p>(3)ガバナンス機能・運営体制等の強化に対応した部局組織目標評価の実施 学長・役員執行部と部局長との連携強化を図るため、部局組織目標評価について、「全学への貢献度」を新たな評価基準として追加するなどの変更点を踏まえた評価を実施する。</p> <p>(4)研究者情報の公開促進 大学情報データベースシステムのデータの一部を公開するウェブサイト「研究者総覧」による主要業績等の情報公開を促進する。</p>	<p>(1)第2期中期目標期間評価の評価結果において改善すべき点と指摘を受けた事項について、行動計画報告シートを活用する形で、該当部局から改善を推進する具体的な取り組みに関して報告を得ることができた。また、エンドポイントや各種評価指標等を盛り込んだ中期計画・年度計画進捗管理シートを活用することにより、第3期中期目標期間初年度の活動に対する自己点検評価を効果的かつ適確に実施した。</p> <p>(2)教職大学院認証評価の受審に関して、全学及び教育学研究科内にそれぞれ自己点検評価に関する委員会を設置するなど学内体制を整備の上、自己評価書の提出、現地調査対応及び評価結果案に対する意見申立対応を行い、適合判定を受けた。また、平成30年度大学機関別選択評価Cの受審に向け、評価センター運営委員会の下にワーキンググループ(WG)を設置し、2回のWG(11/8,3/7)を開催する等自己評価書の作成を進めた。</p> <p>(3)平成29年度実施の部局組織目標評価より、平成26年7月22日にガバナンス改革検討委員会から出された提言を受け、報告書の各評価領域に「大学全体への貢献度」の記載項目を追加した。また平成30年度より、部局組織目標評価報告書について、アピールする点に下線を引かせる等、メリハリをつけた報告書になるよう作成要領の見直しを行った。また、新たに始まる所信評価報告書について、作成要領の作成を行った。</p> <p>(4)研究者情報の公開促進に向けて、新任職員研修会で大学情報データベースシステムへの入力と呼びかけると共に、教員活動評価で「研究者総覧の公開」を評価項目として追加することを推奨する等、公開率向上に向けた取組を行っている。昨年度と同様に高い公開率を維持している。</p>
④-2 全学の組織目標との関連	④-2 大学全体への貢献
理事が自ら掲げる「ガバナンス機能・運営体制等の強化」に貢献するため、部局組織目標評価について、「全学への貢献度」を新たな評価基準として追加するなどの変更点を踏まえた評価を実施する。	上(3)に同じ
④-3 目標とする(重要視する)客観的指標	④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度業務に関する実績の評価結果 ・教職大学院認証評価の評価結果 ・研究者総覧による主要業績等の公開率 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度業務に関する実績の評価結果: 業務運営の改善及び効率化等の4項目において、全て「中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」(6段階評定の上から3番目)の評価。全ての項目で注目される事項がある。 ・教職大学院認証評価の評価結果:「適合」 ・研究者総覧による主要業績等の公開率:学位81%(84%)／研究課題77%(81%)／主要業績64%(68%) ※括弧書きは昨年度数値。
⑤管理運営領域	
⑤-1 目標	⑤-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<p>(1)部局運営体制の改善強化 ・評価センターの下に選択評価C(教育の国際化の状況)を受けるためのWGを設置する。 ・評価センター運営委員会の体制を維持するとともに評価センターに係る事務職員を確保する。</p> <p>(2)効率的・効果的な予算執行 ・大学情報データベースシステムの改修に向けて、経費の節減等の工夫により予算を確保する。</p> <p>(3)法令遵守の徹底 ・法令遵守に関する研修等に積極的に参加するとともに、法令遵守の徹底を意識した活動を行う。</p>	<p>(1)評価センター運営委員会の下に選択評価Cワーキンググループを設置し、自己評価書の作成等について審議を進めている。また、事務機能については引き続き総務・企画部総務課にて対応を行っている。</p> <p>(2)大学情報データベースシステムについて、情報統括センターと連携の上、現行のシステム業者並びに競合他社と打合せを行い、次期システム候補の検討を進めた。</p> <p>(3)ハラスメント防止研修会の参加や情報セキュリティ能力の維持・向上のためのe-Learningの受講など、法令遵守を意識した活動に努めた。</p>
⑤-2 全学の組織目標との関連	⑤-2 大学全体への貢献
<p>(1)大学情報データベースシステムの改修のための予算確保 大学の目標として定める「効率的かつ効果的な予算配分と経費節減」に貢献するため、大学情報データベースシステムの改修に向けて、経費の節減等の工夫により予算を確保する。</p> <p>(2)法令遵守の徹底を意識した活動 大学の目標として定める「法令遵守の徹底」に貢献するため、法令遵守に関する研修等に積極的に参加するとともに、法令遵守の徹底を意識した活動を行う。</p>	上(2)、(3)に同じ
⑤-3 目標とする(重要視する)客観的指標	⑤-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
【総括記述欄】	
<p>全体通じ、計画した目標を達成している。 上記の取組に加え、大学改革支援・学位授与機構が開催する「中期目標期間における教育研究の状況の評価に係る意見交換会」に参加し、第3期中期目標評価の情報収集を行うとともに、大学ポータル(国際版)参加に向けた確認手続きを進めた。</p>	